

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 23 年 11 月 28 日  
東京電力株式会社

## <タービン建屋地下のたまり水の処理>

高濃度の放射性物質を含むたまり水の処理設備及び貯蔵設備の状況

### [処理設備]

- ・6/17 20:00 放射性物質除去装置の本格運転を開始。
- ・6/24 12:00 淡水化装置(逆浸透膜型)における処理を開始。
- ・6/27 16:20 循環注水冷却を開始。
- ・8/7 16:11 蒸発濃縮装置の本格運用を開始。
- ・8/19 19:33 第二セシウム吸着装置(B系ライン)を起動し、セシウム吸着装置および除染装置との並列運転によるたまり水の処理を開始。19:41 定常流量に到達。

### [貯蔵設備]

- ・6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付中。

## トレンチ立坑・各建屋地下のたまり水の移送状況

号機	排出元 移送先	移送状況
2号機	・2号機タービン建屋 集中廃棄物処理施設[雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・11/10 9:10～ 移送実施中
3号機	・3号機タービン建屋 集中廃棄物処理施設[プロセス主建屋]	・11/15 9:25～ 移送実施中
6号機	・6号機タービン建屋 仮設タンク	・11/28 移送予定なし

移送先	移送先の水位状況 (11/28 7:00 時点)
プロセス主建屋	水位: O.P.+ 2,128 mm(水位上昇累計:3,345 mm) 11/27 7:00 から 39 mm 上昇
雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)	水位: O.P.+ 2,005 mm(水位上昇累計:2,731 mm) 11/27 7:00 から 43 mm 下降

## トレンチ立坑・タービン建屋・原子炉建屋の水位 (11/28 7:00 時点)

	トレンチ立坑	タービン建屋	原子炉建屋
1号機	O.P. < + 850 mm (11/27 7:00 と同じ)	O.P.+ 3,288 mm (11/27 7:00 から 8 mm 下降)	O.P.+ 4,073 mm (11/27 7:00 から 32 mm 下降)
2号機	O.P.+ 3,027 mm (11/27 7:00 から 20 mm 下降)	O.P.+ 3,039 mm (11/27 7:00 から 17 mm 下降)	O.P.+ 3,151 mm (11/27 7:00 から 13 mm 下降)
3号機	O.P.+ 3,249 mm (11/27 7:00 から 11 mm 下降)	O.P.+ 3,001 mm (11/27 7:00 から 14 mm 下降)	O.P.+ 3,211 mm (11/27 7:00 から 15 mm 下降)
4号機	-	O.P.+ 3,027 mm (11/27 7:00 から 12 mm 下降)	O.P.+ 3,046 mm (11/27 7:00 から 11 mm 下降)

## <放射性物質のモニタリング>

### 海水核種分析結果(参考値)

採取場所	採取日	採取時間	濃度限度比(倍)		
			ヨウ素-131	セシウム-134	セシウム-137
福島第一 5,6号機放水口北側約 30m	11/27	8:40	ND	0.27	0.21
福島第一 1～4号機放水口南側約 330m	11/27	8:20	ND	0.02	0.03
福島第二 3,4号機放水口付近	11/27	8:20	ND	0.02	0.01

・その他、福島第一原子力発電所沿岸 1 地点(11/27 採取分)、沖合 7 地点(11/26 採取分)における主要 3 核種(ヨウ素-131、セシウム-134,137)については全て ND。

<使用済燃料プールの冷却> (11/28 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中(8/10 11:22~)	16.0
2号機	循環冷却システム	運転中(5/31 17:21~)	18.3
3号機	循環冷却システム	運転中(6/30 18:33~)	20.4
4号機	循環冷却システム	運転中(7/31 10:08~)	24

[2号機]・11/6～ 使用済燃料プール放射性物質除去装置の運転を開始。

・11/28 9:12 使用済燃料プール循環冷却システムの一次系ポンプの出入口の流量差が大きいかを示す警報が発生し、当該システムが自動停止。その後、現場確認により漏えい等がないことを確認。現在、原因調査中。

<原子炉压力容器への注入・原子炉の状況> (11/28 11:00 時点)

号機	注入状況	給水ノズル温度	原子炉压力容器下部温度	原子炉格納容器圧力
1号機	淡水注入中 (給水系:約4.4 m <sup>3</sup> /h)	42.8	43.7	116.3 kPaabs
2号機	淡水注入中 (給水系:約3.1 m <sup>3</sup> /h, 炉心スプレイ系:約4.4 m <sup>3</sup> /h)	69.5	75.1	111 kPaabs
3号機	淡水注入中 (給水系:約1.9 m <sup>3</sup> /h, 炉心スプレイ系:約6.0 m <sup>3</sup> /h)	58.9	68.1	101.6 kPaabs

1号機原子炉格納容器圧力について、数値に誤りのある可能性が確認されたため、現在調査中。

[4号機] [5号機] [6号機] 特に変化なし。

<その他>

・10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的として、5,6号機滞留水浄化の水を利用し、散水を継続実施中。

・11/28～ 5号機取水路ポンプ室底部に堆積した砂等の吸い込みによるポンプ性能低下の防止を目的とした清掃作業に伴い、残留熱除去系(D)ポンプを停止し、原子炉の冷却を停止。補機冷却海水系(C)ポンプを停止し、使用済燃料プールの冷却を停止。なお、冷却停止予定時間は毎日7:00～17:00頃で、1日あたりの原子炉水温度の上昇は約17、使用済燃料プール水温度の上昇は約4の見込み(作業期間は1週間程度を予定)。

・11/28 14:28 頃 全面マスク着用省略可能区域において放射性物質濃度をモニタリングするため、免震重要棟前に設置している測定器(連続ダストモニタ)にて警報が発生。

14:38 警報を受け、運用に基づき、作業員へ全面マスク着用を指示。

16:04 その後、作業員が現地(免震重要棟前)で手動にてダスト測定した結果、検出限界値未満であることを確認し、全面マスク着用省略可能な運用へ戻す旨を指示。警報発生原因は調査中。

『2号機圧力抑制室ガス温度』

・11/26 17:00 「52.7」を表示。23:00 「オーバースケール」を表示(デジタルレコーダ)。

11/27 5:00 「102.6」を表示。指示値は不安定であるが、同種の温度計2ヶ所および圧力抑制室プール水の温度変化に有意な変化が見られなかったため、計器不具合の可能性も含め、原因調査中。その後、計器点検の結果、温度検出器からの信号が安定していないことから、当該信号検出ラインで何らかの影響を受け、指示値が「オーバースケール」しているものと推定。今後、当該計器の指示値を継続監視するとともに、類似箇所の測定計器でも監視を実施。

『2号機原子炉格納容器[ドライウェル]内温度(局部冷却設備である空調ユニットの戻りライン温度)』

・11/27 5:00 「78.2」を表示。

6:50 約84 にステップ状に上昇していることを確認。一方、原子炉压力容器底部および圧力抑制室プール水の温度変化については、原子炉格納容器(ドライウェル)内の温度変化と比べて小さく、有意な変動はないことを確認。なお、2号機の原子炉への注水については、下記の通り減少させていることから、原子炉格納容器内の温度が上昇することが考えられるが、ステップ状に上昇したのが、5ラインのうちの1つであり、他の4ラインには同様の変化が見られなかったことから、計器不具合の可能性も含めて、原因調査中。

・11/24 19:11 炉心スプレイ系からの注水量を約7.2m<sup>3</sup>/hから約5.6m<sup>3</sup>/hに調整(給水系は約2.9m<sup>3</sup>/hで継続)

・11/26 10:18～11:02 炉心スプレイ系からの注水量を約5.5m<sup>3</sup>/hから約4.5m<sup>3</sup>/hに調整(給水系は約3.0 m<sup>3</sup>/hで継続)

その後、計器点検の結果、故障等を示すデータは得られず、点検後の指示値は、点検前の指示値と変化がなかったことから、当該信号検出ラインで何らかの影響を受け、指示温度が上昇したものと推定。今後、当該計器の指示値を継続監視するとともに、類似箇所の測定計器でも監視を実施。

以上